

東温市事務事業評価シート 平成21年度実施事業対象

027	1004	事務事業名	埋蔵文化財試掘・本発掘調査事業	細事務事業名		公的関与	6						
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営・一部委託	実施計画	非該当	事業期間 年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし					
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち	政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(3)文化財の保存・活用					
	事業の対象	周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等			根拠法令								
	事業の目的	最終的	埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等に先だち、試掘・発掘調査を実施し、埋蔵文化財を保護すること			今年度							
	活動内容	土木工事等が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しないかどうかの事前協議を行います。(建設部局からの合議という方法で実施)			試掘・確認調査の報告書を作成します。								
		事業者から市へ周知の埋蔵文化財包蔵地での試掘・確認調査の依頼があれば、市は県へ届出を行い、試掘・確認調査の指示を待ちます。			出土物があった場合は遺失物法による届出を行います。(後に県から市へ譲り受ける。出土品は展示等で活用します。)								
		市は、県の指示に基づいて、試掘・確認調査を行います。(試掘・確認調査の一部は業者に委託して実施。)											
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	最終目標			
				事業の性格上、指標設定になじまない		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育			費				
	直接事業費		平成 20 年度決算	平成 21 年度決算	平成 22 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円	事業費は、民間土木工事と公共工事に係る試掘・確認調査委託料です。平成22年度予算が増額したのは、埋蔵文化財包蔵地「川上古墳群」内で大規模な公共事業が予定されており、そのための試掘・確認調査が必要のためです。							
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	1,591 千円	1,836 千円	5,761 千円								
	計(A)	1,591 千円	1,961 千円	5,761 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人	372 千円	0.050 人	378 千円	0.050 人	377 千円					
		臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円					
	全体事業費(A+B)		1,963 千円		2,339 千円		6,138 千円						
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明(一次評価者のコメント)												
必要性	国民の財産である埋蔵文化財の保護のために、周知の埋蔵文化財包蔵地内での試掘・確認調査は必要です。												
有効性	試掘・確認調査の目的は、国民の財産である埋蔵文化財の保護にあります。土木工事等に先だち行う試掘・確認調査は、埋蔵文化財の保護目的のためには有効な手段です。												
達成度	周知の埋蔵文化財包蔵地内での試掘・確認調査は、建設部局から工事計画等について書類で合議(=事前協議)を行っています。埋蔵文化財が知らない間に破壊されることを防止する目的は達成されています。												
効率性	土木工事等のうち、周知の埋蔵文化財包蔵地内で実施されるものについて、試掘・確認調査を行います。その後の対応は、県の指示によります。試掘・確認調査のデータから、慎重工事・工事立会にとどまる場合もあります。												
当面の課題	周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事には、着手の60日前(民間)、あらかじめ(公共)の届出・通知が法定されています。土木工事等の計画段階で土地所有者の理解と、書類での事前協議を求めています。なかなか理解を得られないケースもあります。また試掘・確認調査は1名の考古担当の職員があたっています。生じる件数や試掘・確認調査による結果は、予見が不可能なため、計画的な実施は困難です。												
改革計画	試掘・確認調査業務の一部を委託することで対応しています。委託の一部とは、市職員の指導のもと、試掘・確認調査の現場での作業の委託です。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	埋蔵文化財に関する専門の知識と経験を有する職員とはいえ、すべてを処理することは不可能です。埋蔵文化財の保護を果たすために、業務の一部委託も活用しながら、試掘・確認調査を行ってください。												

東温市事務事業評価シート 平成21年度実施事業対象

027	1007	事務事業名	文化財保護事業		細事務事業名			公的関与	1				
課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係		電話番号	089-964-0701		メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp				
事業区分	経常的事務事業		事業運営方法	直営・一部委託	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(3)文化財の保存・活用					
事業の対象	指定文化財(国・県・市の指定文化財所有者または管理責任者)				根拠法令	文化財保護法第3条							
事業の目的	最終的	文化財の保護と活用			今年度								
活動内容	重要文化財建造物の防災防火事業 重要文化財建造物の消防設備点検と防火訓練					指定文化財保存育成事業 指定文化財の所有者または管理責任者に対して、毎年、保存育成補助金または管理費補助金を交付							
	指定文化財等周辺の除草清掃 向井古墳、ピャクシン、層塔及び五輪塔群等の除草清掃(一部委託)					天然記念物保存顕彰事業 オキチモズクなど天然記念物の保存のために必要な工事等の一部を国・市が補助							
	指定文化財説明看板設置 毎年3カ所に新規設置												
成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	最終目標				
			文化財の保存・継承が目的のため、成果指標にはなじまない		目標								
					実績								
					目標								
					実績								
					目標								
				実績									
予算費目	会計	一般会計			費目名	教育			費				
直接事業費		平成 20 年度決算	平成 21 年度決算	平成 22 年度予算	備考								
	国・県支出金	2,126 千円	0 千円	0 千円	平成20年度国庫補助 オキチモズク発生地環境整備事業により防護フェンスを設置しました。 平成21・22年度は天然記念物保護顕彰事業の予定はありません。								
	地方債	千円	0 千円	0 千円									
	その他特定財源	0 千円	0 千円	千円									
	一般財源	3,600 千円	1,583 千円	1,705 千円									
計(A)	5,726 千円	1,583 千円	1,705 千円										
人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人 372 千円	0.050 人 378 千円	0.050 人 377 千円									
	臨時職員工数・経費	0.000 人 0 千円	0.000 人 0 千円	0.000 人 0 千円									
全体事業費(A+B)		6,098 千円	1,961 千円	2,082 千円									
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明(一次評価者のコメント)												
必要性	文化財は保存・伝承により後世に継承されます。文化財の所有者や継承団体による保存・伝承は、国民の財産である文化財の保存・伝承そのものといえます。特に指定文化財の保護については、行政が保護する必要があります。												
有効性	文化財に対する認識や歴史的価値観の周知等を正しく行うことは、地域に伝わる文化財の保存、活用、再発見等に繋がります。文化財の保護(保存・伝承)は、郷土の文化の継承に有益であると考えられます。												
達成度	指定文化財の保存や伝承は問題なく継承されています。また後世に引き継いでいくことが必要であるため、今後も文化財保護活動を継続していきます。現在のところ、伝承事業の衰退や指定文化財の破損(天然記念物の枯死を除く)はありません。												
効率性	文化財の保存・伝承は、有形文化財、天然記念物、無形民俗文化財によって方法等が異なります。そこで、国や県などからそれぞれに適した保存・伝承の情報や方法を取り入れ、実施していきます。												
当面の課題	指定文化財の保存や活用は、所有者や伝承者の協力が不可欠です。県の文化財巡視員からの巡視情報をはじめ、必要な情報の提供に努めています。												
改革計画	指定文化財の所有者や伝承者が行う保存や伝承の状況について、年1回の市補助金支給時に文書で報告を受けています。その報告に基づいて現地調査を行うなど、文化財所有者や管理責任者と協力しあえる体制づくりに努めています。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	文化財保護は郷土の文化を保存・伝承するという側面があります。文化財保護の効果をあげるために必要な事業です。												

東温市事務事業評価シート 平成21年度実施事業対象

027	1021	事務事業名	歴民講座運営事業	細事務事業名		公的関与	6						
課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp						
事業区分	ソフト事業	事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし						
総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち	政策項目	4 芸術・文化の振興	主要施策	(4)歴史民俗資料館の充実							
事業の対象	市民			根拠法令									
事業の目的	最終的	歴史民俗資料館が郷土の歴史を学ぶ場となること		今年度	郷土史講座、れきみん講座(勾玉作りや縄文土器作りなど)の講座の開設と企画展示により、市民に興味をもって来てもらえる館の活動を目指します。								
活動内容	東温史談会と共催で年6回の講演会として郷土史講座を開催します。			小中学校の児童生徒の郷土史学習を支援します。									
	親子で体験する講座で、勾玉作り、縄文土器作り、わらじ細工、おりがみの4講座を実施しています。												
	出前講座による郷土史や文化財についての学習活動を支援します。												
成果指標	指標名	計算式又は指標設定理由		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	最終目標					
		事業の性格上、指標設定になじまない		目標									
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
			実績										
予算費目	会計	一般会計		費目名	教育		費						
直接事業費		平成 20 年度決算	平成 21 年度決算	平成 22 年度予算	備考								
	国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円									
	地方債	0 千円	0 千円	0 千円									
	その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円									
	一般財源	160 千円	276 千円	222 千円									
	計(A)	160 千円	1,961 千円	222 千円									
人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人	372 千円	0.050 人	378 千円	0.050 人	377 千円						
	臨時職員工数・経費	0.050 人	86 千円	0.050 人	86 千円	0.050 人	85 千円						
全体事業費(A+B)		617 千円	2,424 千円	684 千円									
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明(一次評価者のコメント)												
必要性	郷土史講座とれきみん講座は、館の活動を広報し、利用者の増大を図るために有益です。親子で参加する体験型の講座としては 勾玉作り、縄文土器作り、わらじ細工、おりがみ講座があります。また、古文書入門講座とともに、歴民が郷土史を学ぶ場所であることをPRする重要な事業です。												
有効性	各講座とも定員を超過する申し込みがあります。継続することは有益です。												
達成度	郷土史講座、れきみん講座、出前講座の開催のほか、小中学校児童生徒や各種の団体による施設見学を行います。見学を通じて郷土の歴史を学ぶことのよさを伝え続けます。												
効率性	講座は職員(学芸員2名)が指導者となって開設しています。講座はイベント方式を主眼に、参加人数の増加を進めています。(郷土史講座とおりがみ講座は講師を招いています。)												
当面の課題	講座に参加してもらうことで歴史民俗資料館の活動を広報し、ひいては展示見学者の増大へとつなげることが課題です。講座の開設は有益です。												
改革計画	より多くの市民が参加できるように、イベント方式での実施を検討します。講座の運営方法や募集についても検討します。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	3	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	歴史民俗資料館の活動をPRするいい手段となっており有益です。												

東温市事務事業評価シート 平成21年度実施事業対象

027	1022	事務事業名	企画展・特別展等の公開事業	細事務事業名		公的関与	8						
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし			
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(4)歴史民俗資料館の充実				
	事業の対象	市民				根拠法令							
	事業の目的	最終的	歴史民俗資料の収集、保存及び展示公開				今年度	季節展のほか、向井古墳出土物の展示を行います。					
	活動内容	歴史民俗資料の収集、分類整理、収蔵、及び展示や講座等についてのHomePage等での広報				歴史民俗資料館ロビー展 収蔵品の中からテーマを絞って行う企画展							
		第1展示室での展示公開 常設展「東温市の歴史」				川内公民館ロビー展 「揚り畑遺跡出土品の展示」のほか、写真パネル展の実施							
		第2展示室での展示公開 収蔵品を使った東温市に関する企画展											
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	最終目標		
		入館者推移		(前年度入館者数 ÷ 今年度入館者数) × 100 = 伸び率			人	目標	4,000	4,000	4,000	4,000	
						実績	4,101	3,742					
						目標							
						実績							
DO	予算費目	会計	一般会計			費目名	教育					費	
	直接事業費		平成 20 年度決算	平成 21 年度決算	平成 22 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円	経費は展示用消耗品等です。 平成21年度は施設の修繕のため11月に休館を行い、入館者減少を生じました。							
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	318 千円	778 千円	700 千円								
	計(A)	318 千円	778 千円	700 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人	743 千円	0.100 人	755 千円	0.100 人	754 千円					
		臨時職員工数・経費	0.100 人	171 千円	0.100 人	171 千円	0.100 人	170 千円					
	全体事業費(A+B)		1,233 千円		1,705 千円		1,624 千円						
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	館の企画展・季節展で展示する資料は、東温市内で収集・寄贈された資料です。東温市の歴史や民俗について展示しています。東温市の歴史を学べる資料の収集・展示を行っており、今後とも必要です。												
有効性	東温市に関する歴史・民俗資料を収集し、展示することは、東温市の歴史や民俗に関する文化を保存することにつながっています。展示は市民が先人の文化に触れる機会であり、継続すべき有益な事業です。												
達成度	収蔵品の中からテーマを設定して展示企画を作っています。展示は年間計画によって行われています。展示の内容は、広報誌のほか、市HPへの掲載、市内小中学校への案内などにより、PRしています。												
効率性	展示は職員(学芸員2名)により行われています。移動展として川内公民館とさくらの湯での写真パネル展なども行っています。展示企画の立案からキャプション作成まで職員の自作です。												
当面の課題	展示と表裏一体で重要なのは収蔵場所です。歴史民俗資料館の特別収蔵庫、第一収蔵庫に収まりきれないものは、川内支所第二別館、旧重信給食センターで保管しています。収蔵場所に苦慮しています。												
改革計画	新しい展示の際には現在の展示物の収蔵が必要です。展示と収蔵は不可分の関係にあります。そこで、方法のひとつとして、歴史民俗資料館会議室にて「収蔵展示」という方法が可能かどうか検討を進めます。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	3	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	館で収集・保存している資料を公開することは、市民が郷土の歴史を学ぶための効果的な方法です。館の展示室以外の場所で行う写真パネル展なども、館の活動を知ってもらうためには効果があります。今後も継続することで、更に意義が増します。会議室の「収蔵展示」については、川内支所第二別館や旧重信学校給食センターを視野に入れ、長期的な収蔵計画に沿って行う必要があると考えられます。引き続いての検討をしてください。												

東温市事務事業評価シート 平成21年度実施事業対象

027	1028	事務事業名	歴史民俗資料館運営事務	細事務事業名		公的関与	6						
課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp						
事業区分	施設の維持管理	事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし						
総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち	政策項目	4 芸術・文化の振興	主要施策	(4)歴史民俗資料館の充実							
事業の対象	歴史民俗資料館			根拠法令									
事業の目的	最終的	歴史民俗資料館の管理		今年度									
活動内容	歴史民俗資料館の修繕			備品の購入									
	歴史民俗資料館展示室のクリーニング清掃												
	事務用消耗品等の購入												
成果指標	指標名	計算式又は指標設定理由	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	最終目標						
		事業の性格上、指標設定になじまない	目標										
			実績										
			目標										
			実績										
			目標										
		実績											
予算費目	会計	一般会計		費目名	教育		費						
直接事業費		平成 20 年度決算	平成 21 年度決算	平成 22 年度予算	備考								
	国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円									
	地方債	0 千円	0 千円	0 千円									
	その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円									
	一般財源	1,339 千円	1,320 千円	912 千円									
	計(A)	1,339 千円	1,961 千円	912 千円									
人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人 372 千円	0.050 人 378 千円	0.050 人 377 千円									
	臨時職員工数・経費	0.010 人 17 千円	0.010 人 17 千円	0.010 人 17 千円									
全体事業費(A+B)		1,728 千円	2,356 千円	1,306 千円									
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	施設の運営では、収蔵庫や空調関係の管理が必要不可欠です。施設の大規模な修繕等は、一体の建物である図書館と協力して進める必要があります。												
有効性	収蔵物を損なわない管理が必須です。また展示施設でもあるため、来館者が利用しやすい環境の保持と情報提供に努めています。												
達成度	施設の大規模な改修工事等は予定されていませんが、修繕については速やかに対応し、来館者の方へ不都合が生じないようにしています。												
効率性	市立図書館の3階にあります。そこで1階、2階の図書館からの導線を企図して、階段の壁面に3階の展示等をPRする写真パネルを掲示しています。												
当面の課題	当面の課題は、建物ができてから20年以上を経過しており、老朽化による修繕箇所が年々増加していることです。												
改革計画	会議や講座は図書館2階の会議室や中央公民館を使っています。老朽化や耐震対策など大規模な修繕工事については、図書館の将来の大規模改修計画に含めて行います。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	図書館、歴史民俗資料館民俗資料館、プラネタリウムが一体の建物であるため、建物の管理は一体のものとして行う必要があります。事業の運営面では、会議やイベントの開催地を図書館の会議室や中央公民館、川内公民館に限らず、市内へ出向いて実施できる場所の検討をしてください。												

東温市事務事業評価シート 平成21年度実施事業対象

027	1029	事務事業名	旧町誌編纂事務	細事務事業名		公的関与	6						
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし			
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(4)歴史民俗資料館の充実				
	事業の対象	旧町誌（重信町誌及び川内町新誌）が編纂されてから東温市となった平成16年9月21日までの間についての町誌の編纂				根拠法令							
	事業の目的	最終的	旧町誌の続編として編纂、刊行します。目標年度は平成23年度末			今年度	執筆委員による原稿の執筆						
	活動内容	編纂委員会を設置し、委員8人で編纂に関する基本方針を決定します。				旧町誌編纂事務の事務局は歴史民俗資料館が担当しています。							
		執筆委員を委嘱し、第一部「重信町」、第二部「川内町」、第三部「合同の部」として、平成22年12月までに執筆します。											
		町誌編纂員2名を設置し、それぞれに重信町誌続編、川内町誌続編の編纂業務を行います。											
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	最終目標			
				事業の性格上、指標設定になじまない		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育		費					
	直接事業費		平成 20 年度決算	平成 21 年度決算	平成 22 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円	平成21年度予算までは総務課が所管していた。平成22年度から歴史民俗資料館で予算編成した。歴民に担当者1名のほか2名の編纂員(嘱託職員)が設置されている。編纂員は川内支所3階の町誌編纂室にて業務を行っています。							
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	4,854 千円	4,418 千円	2,382 千円								
	計(A)	4,854 千円	1,961 千円	2,382 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人	372 千円	0.050 人	378 千円	0.050 人	377 千円					
		臨時職員工数・経費	2.000 人	3,422 千円	2.000 人	3,422 千円	2.000 人	3,404 千円					
	全体事業費(A+B)		8,648 千円		5,761 千円		6,163 千円						
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	方法改善
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	旧町誌続編の編纂は自治体の沿革史であり、市が主体となって実施する必要があります。												
有効性	旧町誌続編の編纂は、旧町から合併に至るまでの期間を対象とする。収集された資料は、将来の市史編纂に活用されます。												
達成度	執筆者からの原稿提出が平成22年度末と予定しています。そのため、平成23年度に校正、印刷見積の後、平成24年度予算計上を予定しています。編纂委員会が目標とする平成23年度末の刊行は、原稿が完成した以降の予算化となるため、平成24年度となります。												
効率性	編纂業務には編纂員2名(嘱託)が配置されています。効率は悪くないが、平成22年度が執筆期間なので、平成23年度は校正と予算化のを行う期間として修正する必要があります。												
当面の課題	平成22年度末の執筆完了を目指しています。しかし重信町誌続編も川内町新誌続編も、行財政編の一部に執筆未定の分野が存在します。平成22年度末に原稿を完成させ、校正と印刷見積により予算化は平成23年度当初予算になります。												
改 革 画	執筆状況を把握し、編纂委員会において目標年の修正が必要です。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	編纂委員会で計画した予定にそって、執筆者への資料収集などの協力を努めてください。												